役員エッセイ

大通公園を望む窓辺から

ジョン・レノンはなぜ殺害されたのか？狙撃犯チャップマンとは

常任理事　水谷（みずたに）　匡宏（まさひろ）

1980年12月８日の深夜に、ニューヨークのセントラルパークに面した高級集合住宅、ダコタ・ハウスの正面玄関前で元ビートルズのメンバー、ジョン・レノンがマーク・チャップマンと名乗るアメリカ南部出身の若者から５発の銃撃を背後から受け、40歳の短い人生を終えた。その狙撃犯については犯行直後にホテルのガードマンに身柄を確保されたとき、とっとと失せろ、この野郎と罵倒されたといわれている。これがいかに卑劣で、利己的な犯行であったのかが伺える。

その犯行から45年が経過した昨年に、服役中の犯人に刑務所内の面会室で直撃インタビューに複数回成功した日本人の女性ジャーナリストがいた。その人物はニューズウィーク日本版の元ニューヨーク支局長の青木冨喜子氏である。犯人から「誰よりも粘り強いリポーターだよ」と冗談めかしながら開口一番に言わしめた強者である。その一部始終は『ジョン・レノン　運命をたどる　ヒーローはなぜ撃たれたのか』のタイトルで、講談社より最近出版された。さっそく私もその本を購入し通読したが、犯行時の心境を「殺人は悪と知っていたが、名声が欲しかった」と従来通りの発言を繰り返すだけで、新たな証言は何も引き出せなかった。当時の裁判で行われた精神鑑定では、慢性妄想型統合失調症と診断されている。うつ病で自殺未遂の既往のある犯人は、犯行前よりジョン・レノンが自らの人気ぶりをキリストさえも超えたと明言したことや、大富豪の住む超高級ホテルの屋上で記念写真を誇らしげに撮影したことに嫉妬心をいだいていた。裁判で無期懲役刑を言い渡された後は長期服役中であり、現在すでに67歳となった本人からは、２年ごとに仮釈放の嘆願書が提出されている。幸いなことに刑務所当局からは却下が繰り返されているが、もし釈放された場合には世間のバッシングや復讐の嵐が沸き起こり、まさにビートルズの代表曲『Help!』の状況になるであろう。

毎年クリスマスシーズンが近づくと無性にジョン・レノンとオノ・ヨーコが少年少女たちと合唱する『Happy Xmas』の曲を聴きたくなる。いつになったら「War Is Over If You Want It」の歌詞通りの世界が到来するのであろうか。ジョン・レノンの殺害は返す返す痛ましすぎる事件であった。

川でサバが釣れた！

理事　坂本（さかもと）　孝志（たかし）

ながらく渓流釣りを楽しんでいますが、時々変わった渓流魚を釣ることがあります。それらの一つに、通称「川サバ」と呼ばれる魚があります。もちろん海水魚である鯖が渓流にいるはずはありません。魚の体表面の文様が鯖に似ていることからそう呼ばれています。

その正体はサクラマス（ヤマメ）とイワナの自然交雑種です。初めて川サバを釣ったのは学生のときで岩内郡共和町を流れる堀株（ホリカップ）川でした。その後、三十数年のブランクを経て日高方面の小河川で２匹目が釣れました。それ以来、さらに数匹の川サバを釣っています。本来棲み分けをしていたイワナとヤマメの生息域が重なった場所で発生しやすく、その存在確率は１％未満とされています。

顔つきや体型はヤマメに似ていますが、背中にイワナ由来のまだら模様（虫食い模様）が入ります。通常は繁殖能力を持たない「一代雑種」であり、成熟することがないため河川での定着はないとのことです。非常に珍しいため「幻の渓流魚」とも呼ばれ、釣り人からはその美しい模様が珍重される魚です。また、私は食べたことはありませんが美味であるとされています。とある食レポによれば、イワナと比べると野性味といったクセがなくヤマメのように甘みのある味。ヤマメと比べると身がしっかりとしていてイワナに近い食感。皮に臭みがあまりなく川魚にしては食べやすい感覚とありました。札幌市真駒内公園内にある札幌市豊平さけ科学館では、サクラマスとアメマスを人工交配した川サバを常設展示しているようなので興味のある方は行ってみてはいかがでしょうか。また、私が釣った川サバの動画をYouTubeにアップロードしていますのでよかったら「千歳でGO 第141回、第176回、第188回」で検索してみてください。ここのところしばらくは体調不良で釣りから離れていましたが、今シーズンは川サバに再挑戦し幸運にも釣ることができましたら自宅の水槽で飼育してみようと思っています。